

# 外国人生徒が国語の読解でつまづく要因

## —文法的側面から—

筒井千絵

### 1. 本研究の背景と目的

文部科学省の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」によると、日本では、現在7万人を超える外国人児童・生徒が日本の小・中・高校に在籍している。この他、日本国籍を有していても、日本語指導が必要な子どもも8千人程度存在するとされている。

こうした、日本語を母語としない子どもたち（以降JSL<sup>1</sup>生徒とする）は、一定期間日本語の初期指導<sup>2</sup>を受けたのち、日本人生徒と同様にクラスで授業を履修するのが一般的であるが、ある程度日常会話ができるレベルになっても、教科学習に困難を感じる子どもが多いのが現実である。特に国語の読解でつまずき、授業についていけなくなり、結果として高校・大学への進学が困難となるという深刻な問題が、以前から多く指摘されている。

JSL生徒にとっての国語の読解の難しさの要因としては、多岐にわたる膨大な語彙の理解の難しさがよくとりあげられる。しかし、辞書などを利用し、個々の語の意味がわかっても、文章全体の意味は依然としてわからない、というケースも多いのである。それはなぜなのか。一因として考えられるのが、文章中に用いられている文法の理解の不十分さである。つまり、複文や、文と文との関係等、文章構造が理解できていないために、文章全体の理解に至っていないということも推測される。ところが、これまでのJSL生徒の教科学習に関する研究では、教科書の文章の文法形式に着目して調査・分析をおこなったものはほとんどない。

よって、本研究においては、中学国語教科書におけるどのような文法的要素

---

1 Japanese as a Second Languageの略

2 地域により、内容や期間は異なる。

が、JSL生徒の文章理解のつまずきの要因となっているかを、JSL生徒を対象とした読解調査によって明らかにする。また、調査によって明らかになった文法形式の出現傾向を、主要4社<sup>3</sup>の国語教科書のコーパスを用いて調査し、JSL生徒に国語の読解指導をする際、どのような文法形式に留意することが有効であるかを検討する。

## 2. 先行研究

JSL生徒の教科学習に関して、生活言語と学習言語の違いに着目した調査・研究は近年増加しつつある。しかし、いまだ学習言語という観点から、教科書や学習教材を詳細に分析した研究は多くない。

バトラー（2006）は、教科書の文法構造の難しさについて、長い修飾語が多く複文が多いなどの、ある種の文法構造が高い頻度で使われていること、教科間でも違いがあることなどを指摘している。より具体的な研究としては、中尾（1999）では、外国人児童の教科学習という観点から小学校1～6年の主要5教科の教科書を対象に、初級外の文末表現・複文率、複文の構造について分析をおこなっている。また、中学校の教科書の分析としては、「教科書コーパス」国立国語研究所（2008）をもとに各教科の特徴語を抽出した田中（2008）や、コーパスをもとに学習語彙リストを作成したバトラー（2008）などがある。しかし、教科書の文法形式の難しさについて、JSL中学生徒そのものを対象とした調査や、中学校の教科書コーパスに基づいて調査をおこなった研究は、ほとんど見当たらない。

## 3. 事前調査

### 3-1. 国語科教師へのインタビュー

まず、JSL生徒が国語の授業についていけないという実情を把握するために、中学国語の授業において、現代文の読解指導に際して、教師がどのような点に

---

3 教育出版、東京書籍、三省堂、光村図書

留意して生徒に指導をおこなっているのか、公立中学校国語科教師3名と教育委員会国語科指導主事1名（計4名）にインタビューをおこなった。その結果、文法形式に関する質問については以下のような回答が得られた。

- ①文章の内容の背景や、難解な語・慣用表現の説明はするが、通常、文法については触れない。
- ②各単元にかけられる時間数が限られているため、一文単位で内容を理解しているか確認する時間的余裕はない。
- ③読解のキーとなる文章中の接続詞や、意見述べの文末表現に着目はさせるが、その意味を知っていることが前提で、表現の説明まではおこなっていない。

このインタビューによって、国語の授業は日本人生徒の既有知識が前提としておこなわれるため、クラスにJSL生徒がいたとしても、その生徒が日本語の文法形式を理解しているかという点までの配慮は、時間的制約もあり、行き届いていないことが確認された。

### 3-2. 生徒への事前調査

3-1の、教師へのインタビューをもとに、JSL生徒が国語教科書の文章の読解につまづく具体的な要因をさぐるために、以下のような調査をおこなった。

調査時期：2012年9月

調査対象者：神奈川県内の中学2～3年生 計6名

（日本人生徒、漢字圏のJSL生徒及び非漢字圏のJSL生徒、それぞれ男女1名ずつ）

調査方法：テキスト本文をまず生徒に読んでもらい、わからない部分に○をつけてもらった後、通訳を交えてその部分を説明した。その後文章の内容理解確認の質問をおこなった<sup>4</sup>。

---

4 内容理解確認の質問は、教科書ガイドの問題を参考に、調査者4名で作成した。

テキスト<sup>5</sup>：小説「にじの見える橋」杉みき子（『国語1』光村図書）  
説明文「ニュースの見方を考えよう」池上彰（『新しい国語1』東京書籍）

その結果、JSL生徒が「わからない部分」としてチェックしたのは、ほとんどが読めない漢字や副詞を主とする語彙であり、文法形式に関するものは皆無に近かった。ところが、実際は、内容理解確認の質問の回答には、文法形式につまずいたために文意が理解できなかったと考えられる誤答が多く見られた。中でもJSL生徒に共通してみられたのは、以下のような文法形式である。

#### (A) 文末表現

例1：（少年は）しばらくの間、雨がやんだことに気づかなかった。考えごとに心をうばわれていたのである。

…「少年は、なぜ雨がやんだことに気づかなかったのですか」という質問に対して「考えごとに心をうばわれていたから」と答えられない生徒が多かった。「のである」が理由述べに使われることを知らなかったためと考えられる。

例2：もしかしたら自分は今、生まれて初めてにじを見たのではないかと、少年は思った。

…「生まれて初めてにじを見たのではないと思った」と逆の意に取り違えて解釈している生徒が目立った。「ない」という否定表現に引きずられ、誤解したと推測される。

#### (B) 接続関係

例3：紛争でおおぜいの人が命を落としていました。なのに、そのニュースは、ほとんど出てこなかったり、出ても小さな扱いだったりしました。

…「なぜ、そのニュースはほとんど出てこなかったのですか」という質問

5 国語教科書の文章は、小説や随筆などの文学的な文章と論説文や意見文のような説明的な文章に大別される。よって、神奈川県内の主要なテキストから、各1篇を選択した。

に対し、「紛争でおおぜいの人が命を落としていたから」と答えた生徒が数名いた。「なのに」を逆接でなく、「なので」と同様の順接の接続詞としてとらえている可能性がある。

例4：雨は、自分の上にはばかり降るような気がする。いっそぬれるなら、もっともつとずぶぬれになったら、かえってさばさばするだろうと思う。

…「なぜもっとずぶぬれになったら、かえってさばさばすると思ったのか」という質問に対し、答えられない生徒が目立った。ぬれたのか、ぬれていないのかという状況理解に戸惑ったようで、「いっそぬれるなら」という複雑な仮定表現が理解できなかったことが原因であると推測される。

#### (C) 連体修飾節を含む長い複文

例5：視聴者の関心が高い話題はニュースで長い時間取り上げられるけれど、「視聴者はたいして関心を持たない。」とニュース制作者が判断したニュースは、取り上げられなかったり、小さなニュースにしかならなかつたりするのです。

…「なぜ長い時間取り上げられるニュースと取り上げられないニュースがあるのですか」という質問に対し、答えられない生徒が多かった。通訳を介した確認では、単語レベルでは理解できていたことから、文章構造の複雑さが文章理解のつまずきの原因となったと考えられる。

## 4. 調査内容

事前調査の結果から、読解の文章における「文末表現」「接続表現」「連体修飾を含む複文」などがJSL生徒にとってわかりにくい文法であるという仮説が得られた。よって、このうち誤読に大きな影響を及ぼすと考えられる文法形式<sup>6</sup>を、日本語教育的観点からピックアップし、生徒の理解にどのような影響を与える

6 文法形式の理解が文章全体の理解に大きく関わらないと判断したもの、つまりわからなくても文意を大きく誤解することはないと思われる文法形式は、調査の対象としなかった。

かをより詳細に調査した。

調査時期：2013年4月～2014年8月

調査対象者：神奈川県のある公立中学校に通う中学2年生18名及び、神奈川県および東京都の支援団体に通っている中学2年生7名を加えた計25名。（うち、日本語を母語とする生徒9名、JSLの漢字圏生徒11名、非漢字圏生徒5名＜詳細は表1＞）

調査方法：ターゲット文法を含む文の意を問う正誤問題を解いてもらい、理解を確認した。

表1 調査対象者一覧

No.	ルーツとなる国	性別	第一言語	家庭内言語	来日時期	
日本語母語生徒	J 1	日本	男	日本語	日本語	日本生まれ
	J 2	日本	男	日本語	日本語	日本生まれ
	J 3	日本	男	日本語	日本語	日本生まれ
	J 4	日本	男	日本語	日本語	日本生まれ
	JF 1	フィリピン	男	日本語	日本語	日本生まれ
	JF 2	韓国	女	日本語	日本語／韓国語	3歳
	JF 3	台湾／日本	女	日本語	日本語	日本生まれ
	JF 4	インド	男	日本語	日本語	日本生まれ
	JF 5	ネパール	男	日本語	日本語	日本生まれ
	漢字圏生徒	C 1	中国	女	中国語	中国語
C 2		中国	男	中国語	中国語	2011.8
C 3		中国	男	中国語	中国語	2011.2
C 4		中国	男	中国語	中国語	2010.2
C 5		中国	女	中国語	中国語	2010.1
C 6		中国	女	中国語	中国語	2010.6
C 7		中国	女	中国語	中国語	2010.6
C 8		中国	女	中国語	中国語	2011.6
C 9		中国	男	中国語	中国語	2011.2
C 10		中国	男	中国語	中国語	2007.7
C 11		中国	男	中国語	中国語	2012.8

非漢字圏生徒	01	フィリピン	男	セブアノ語	セブアノ語	2013.3
	02	フィリピン	女	セブアノ語	セブアノ語	2013.3
	03	フィリピン	女	タガログ語	タガログ語	2012.9
	04	ルーマニア	女	ルーマニア語	ルーマニア語	2012.4
	05	タイ	女	タイ語	タイ語	2012.3

J：日本人生徒 JF：外国籍だが第一言語が日本語の生徒 C：漢字圏生徒 O：非漢字圏生徒

※JF4の両親はインド人 ※O4は7歳まで在日し帰国。その後再来日

以下は質問紙<sup>7</sup>の一部の抜粋である<sup>8</sup>。

① つぎの文の \_\_\_\_\_ の内容と合っているほうに○をつけてください。

① たばこが吸える店が減っていくことが、残念でならない。

A ( ) ととても残念だと思っている。

B ( ) 残念ではないと思っている。

② 小学生から英語を勉強するのは、よくないのではないだろうか。

A ( ) よくないと思っている。

B ( ) いいことだと思っている。

② 正しい答えに○をつけてください。

① 風邪で学校を休んだまり子は、勉強しないでずっとゲームをしている弟とケンカした。

(1) 学校を休んだのは誰ですか。

A ( ) まり子 B ( ) 弟 C ( ) 二人

(2) 勉強しないのは誰ですか。

A ( ) まり子 B ( ) 弟 C ( ) 二人

(3) ゲームをしているのは誰ですか。

A ( ) まり子 B ( ) 弟 C ( ) 二人

7 ターゲット部分以外の理解（漢字の読みや語彙の理解）が影響しないよう、漢字にはすべてルビを施し、ターゲット文以外の文のすべてに母語の翻訳をつけた。

8 一部抜粋のため、問題番号は連番とはなっていない。

③ A～Cのうち、上の文の内容と合っているものに○、違っているものに×をつけてください。

③もしA高校に合格したとしても、B高校に行ったと思う。

A ( ) A高校に合格しなかった。

B ( ) A高校に合格したが、行かなかった。

C ( ) A高校に合格したから、B高校に行かなかった。

④その日は、朝7時に起きた。眠かったのだ。

A ( ) 朝7時に起きたが、眠かった。

B ( ) 朝7時に起きたので、眠かった。

C ( ) 眠かったから、朝7時に起きた。

## 5. 調査結果と分析

表2 文法形式ごとの正答者の割合

調査対象者 文法項目	日本語母語生徒 (9名)	日本語非母語生徒 (16名)	
		漢字圏 (11名)	非漢字圏 (5名)
てならない	89%	9%	20%
ではないだろうか	100%	18%	40%
ないわけではない	100%	82%	60%
理由を表す「のだ」	46%	24%	20%
にもかかわらず	78%	61%	73%
うとしたら	85%	73%	53%
たとしても	67%	27%	27%
連体修飾節	93%	83%	73%

調査の結果、非母語生徒の誤答のうち、母語生徒と正答率の差が顕著に表れたのは、以下の4つである。

- ①文末表現「～てならない」を「～ではない」と逆の意味に取り違えたケース
- ②文末表現「～ではないだろうか」を「～ではないだろう」と逆の意味に取り違えたケース

③文末表現「～のだ」が理由を表すと解釈できなかったケース

④接続表現のうち仮定条件の「～たとしても」の意味が理解できなかったケース

ただし、「～のだ」は日本語母語生徒にも誤答が目立った。一方、連体修飾節を含む複文の問題は、予測に反して全体に正答率が高かったが、問題文の文構造が比較的単純であったためかもしれない。誤答の傾向としては、動作主でない主語が述語の直前にある場合に主語を取り違えるケースが目立った。

## 6. 対象の文法の教科書の文章における出現数と傾向

5の調査結果をふまえて、実際にJSL生徒がつまずきやすい文法が教科書にどのくらい出現するのか、また文章のジャンルによる使用傾向などがあるかを調査した<sup>9</sup>。結果は以下の通りである。

表3 各出版社に収録された文章中の文法形式の数

出版社・ジャンル		文法形式	～てなら ない	～ではない だろうか	～ないわけ ではない	理由を表 す「のだ」 <sup>10</sup>	～にもか かわらず	～うとし たら	～たとし ても
教育出版 1～3年	説明的文 章計20篇		2	15	0	1	2	0	0
	文学的文 章計20篇		3	11	0	20	0	0	1
東京書籍 1～3年	説明的文 章計20篇		0	26	0	2	4	0	1
	文学的文 章計14篇		1	8	2	11	1	1	1
三省堂 1～3年	説明的文 章計14篇		1	16	0	1	0	1	1
	文学的文 章計8篇		3	9	0	2	0	0	2
光村図書 1～3年	説明的文 章計18篇		0	12	0	3	0	1	3
	文学的文 章計20篇		1	14	0	10	2	1	3

9 出現形に様々な形があるもの（例：～では〈/じゃ〉ないだろうか〈ないか/なからうか/ないでしょうか〉など）については、それらも含めて数えた。

10 「～のだ」にはさまざまな機能があるため、その文章中で理由を表す機能を果たしているかどうかは、日本語教育を専門とする者3名で判定をおこなった。

この結果から、JSL生徒がつまづきやすい「～ではないだろうか」は説明的・文学的文章双方に頻出すること、理由を表す「のだ」は文学的文章に比較的多く現れることがわかった<sup>11</sup>。

## 7. 読解問題における文法形式の分析

前述の4の調査で生徒がつまづいた文法形式が、実際に試験などで読解問題を解く際にキーとなるのかを明らかにするために、表3の主要4出版社の教科書準拠のワークブックの読解問題を分析した。その結果、全991問中、解答を導くために文法の理解が必要な問題は347問あり、全体の35%に上った。

文法がかかわる問題は、大別してA「文法形式が対象となる問題」、B「文法の理解がキーとなる問題」、C「設問や選択肢の理解に文法がかかわる問題」の3種類であった。全347問中、Aタイプは55問（16%）で、多くは文章中の空欄に適当な指示詞、接続詞を選択させる設問である。Bタイプは258問（74%）を占めており、文末表現から筆者の主張を見抜く、接続表現から原因や結論を答えるといった問題が多く見られた。Cタイプは34問（10%）で、設問や選択肢の文に、長い連体修飾節を含むなど、構造が複雑な文が用いられているものである。

3タイプのうち、JSL生徒にとって特に問題となるのはB・Cタイプであると考えられる。明示的な文法問題ではない上、日本語母語生徒にとっては文法形式の意味自体は問題とならないため、授業において指導からもれがちだと考えられるからである。B・Cタイプのうち、中でも出現数の多かった文法形式を以下に挙げる<sup>12</sup>。

11 文法形式の出現傾向は各作品によっても偏りがみられた。

12 出現数が1など、低かったものについては割愛する。

表4 B・Cタイプのうち出現数の多い文法形式の種類と数

文末表現	のだ(理由)	21	～べきだ	5	～にちがいない	2
	～ではない(だろう)か	14	～てしかたがない	5	～てしまった	2
	～からだ	11	～だろう	3		
接続詞	つまり	7	そのため	4	それで	3
	このように	5	だから	4	しかし	3
接続助詞	～ため/ために	12	～から	8	～のに	4
	～ず/ずに	11	～ので	6	～ても/でも	3
その他	指示詞 <sup>13</sup>	61	複雑な構造の文	20	反実仮想(～たら～のに等)	6

以上の調査結果から、読解問題において文法の理解がキーとなる設問は多いこと(特に説明的文章)が明らかとなった。中でも、表4にみられるように、「～ではない(だろう)か」「～べきだ」「～てしかたがない」のような、筆者の主張や感情を表す文末表現や、「つまり」「このように」のような文章のまとめを示す接続表現、「～のだ」「～からだ」「～ため(に)」のような因果関係を示す文末表現・接続表現の理解が重要であることがわかった。

## 8. JSL生徒のための国語ワークブックの作成

調査・分析結果から得られた知見を生かし、読解のためのストラテジー養成を目的としたワークブックを作成した。ワークブック全体は、「漢字」「語彙」「文法」「背景知識」の4部構成となっているが、ここでは文法のみを取り上げ、内容の一部を紹介する。「文法」のコーナーでは、まずJSL生徒の学習支援者(教師やボランティア)向けの「指導のポイント」で、JSL生徒の困難点を説明し、ワークブックの目的を説明している。その後、「文末表現」「接続詞・接続助詞」について、それぞれターゲット文法に焦点を当てた短文レベルの問題と、長文読解問題を用意した。また、解答と解説も用意し、日本語教師でない指導者でも使いやすいように工夫をおこなった。

13 指示詞は問題数は非常に多いが、「『それ』は何を指しますか」といった明示的な問題が多く、形式もわかりやすいため、非母語生徒特有の問題とはみなさなかつた。

以下は作成したワークブックの問題の一部の抜粋である<sup>14</sup>。

文末表現に気をつけましょう

問題1 次の①～⑧の文を読んで、あとのA・Bのうち、文の\_\_\_\_部の容と合っているものに○をつけなさい。

①勉強の時間が多くなったのが、うれしくてしかたがない。

A ( ) とてもうれしいと思っている。

B ( ) うれしくないと思っている。

②小学生から英語を勉強するのは、よくないのではないだろうか。

A ( ) よくないと思っている。

B ( ) いいことだと思っている。

③会社員は、会社の近くに住むべきだ。

A ( ) 会社の近くに住んだほうがいい。

B ( ) 会社の近くに住むことができる。

接続詞・接続助詞に気を付けましょう

問題3 次の①～⑤の文を読んで、あとの文のうち、内容が合っているものに○をつけなさい。※○は一つではないこともあります。

①私は毎朝、朝ごはんを食べずにコーヒーを飲んで出かける。

A ( ) 朝ごはんを食べてから、コーヒーを飲む。

B ( ) 朝ごはんは食べないで、コーヒーを飲む。

②朝の六時に家を出たのに、学校に着いたのは九時だった。

A ( ) 朝早く家を出たから、早く学校に着いた。

B ( ) 九時よりもっと早く学校に着くと思っていた。

④今朝、いつものバスに乗っていたら、学校に間に合わなかっただろう。

A ( ) 今朝、いつものバスに乗らなかった。

B ( ) 今朝、学校に間に合わなかった。

問題4 次の⑥～⑩の文を読んで、( ) に適当な文をあとのA～Cから選びなさい。

14 一部抜粋のため、問題番号は連番とはなっていない。

- ⑧ 予定の飛行機が飛ばなかった。そのため、( )
- A 東京に着くのが三時間遅れてしまった。
  - B 新幹線で行ったほうがいだろう。
  - C 台風が近づいて風が強かったからだ。
- ⑨ 娘が買うのは料理やレストランの雑誌ばかりだ。つまり、( )
- A もっと他の本も読んでほしい。
  - B 食べるのが大好きなのだ。
  - C 旅行の雑誌もときどき買う。

現在は、こうして作成したワークブックを、JSL生徒の指導に当たっている学校やボランティア教室などに要請に応じて配付し、使用してもらいつつ、反応を聞いているところである。

## 7. まとめと今後の課題

生徒を対象とした読解調査及び、教科書やワークブックの分析により、文末表現や接続にかかわる文法形式は、読解の際の重要なキーとなっていることが多く、「～ではないだろうか」のような、日本語母語生徒にとっては問題とならない文法形式や表現がJSL生徒の読解のつまずきとなっていることが明らかになった。しかし、これらの文法形式については、生徒自身も誤読の原因と気づきにくく質問の対象としにくいことから、教師側の指導からもれがちであると推測される。よって、こうした文法形式に留意することが、JSL生徒の読解指導に有用であると言ってよいだろう。こうした結果をふまえて今回ワークブックを作成したが、これはあくまで試作的なものである。現場で使用した感触を聞いて、改善点・不足点を検討し、今後の研究に生かしたいと考えている。

また、今回調査対象とした文法形式は決して網羅的ではないため、今後はコーパスをもとに丁寧に文法形式を精査し、ジャンルによる使用頻度や傾向なども検討していく必要がある。今回解明できなかった連体修飾節の難易度についても、さらに調査を進めていきたい。

## 参考文献

- 田中牧郎（2008）「中学校の教科書語彙と「一般語リスト」の比較」国立国語研究所『言語政策に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』
- 中尾桂子（1999）「小学校検定教科書の構文調査―外国人児童の教科学習支援のための基礎研究―」小出記念日本語教育研究会論文集 7
- バトラー後藤裕子（2010）「小中学生のための日本語学習リスト（試案）」『母語・継承語・バイリンガル研究（MHB）研究』 5
- バトラー後藤裕子（2011）『学習言語とは何か 教科学習に必要な言語能力』三省堂
- 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成26年度）」

## 引用教科書本文

- 池上彰「ニュースの見方を考えよう」（2012）『新しい国語1』東京書籍
- 杉みき子「にじの見える橋」（2012）『国語1』光村図書

## 付 記

本稿は、2012～2014 年度科学研究費補助金基盤研究（C）「日本語を母語としない外国人生徒の読解力を育成するための基礎的研究」（研究代表者：五味政信）の研究成果の一部である。